



創立 2011年6月17日
SAITAMA UKISHIRO
JAPAN

埼玉浮き城プロバスクラブ

2022.6.17 発行

No. 132



例会日 毎月第3金曜日 ホテル ガーデンパレス 熊谷市佐谷田 3248 TEL048-525-7777
事務局 〒360-0823 埼玉県熊谷市榎町 106 (幹事 岡安真也方) TEL・FAX 048-521-3359
会長 根岸 友憲 副会長 木島 隆夫 幹事 岡安 真也 情報委員長 椎橋 俊夫

本日のプログラム

第 133 回 通常例会

国歌斉唱・プロバスソング斉唱 (プロバス賛歌)

会長挨拶 会長 根岸 友憲

幹事報告 副会長 木島 隆夫

委員会報告・同好会報告

入会式 鈴木克枝様 國分泰雄様 会長 根岸 友憲

臨時総会 新理事紹介 加藤力也会員 会長 根岸 友憲

バスデー報告と会員スピーチ 石塚喜助会員他 3名

卓話「老生のET 砲台」 山田 義明

ハッピーボックス披露 例会委員 柿沼 孝枝

閉会 例会委員長 岩崎 安裕

< 第 131 回例会出席率 会員 32・出席 24・出席率 68.57% >

第 132 回 (5 月 20 日) 通常例会

□ 幹事報告

幹事代行 鈴木 民儀

1. さわやかコンサートの役割分担等について 畠山

委員長から説明があった。詳細については、委員会報告にて行う。

創立 10 周年記念 さわやかコンサート開催

5 月 29 日 行田市産業文化会館にて開催 入場者 403 名



会長スピーチ

会長 根岸 友憲



皆様こんにちは。
埼玉浮き城プロバスクラブ創立 10 周年記念式典を終えて、新たなスタートをした本年度でありましたが、今回会長スピーチも最後になりました。

新型コロナウイルスの蔓延により緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が日本中に実施されておりました中でした。7 月例会はどうか開催出来ました。8 月から 10 月まで 3 か月間理事会以外の活動が中止せざるをえなくなり、会員の皆様と顔を合わせる事が出来ず、この先どうなるか見通しのできない時期を迎えてしまいました。幸い 10 月に入りワクチン接種も 2 回目～3 回目と進み 11 月の例会からはどうか正常に近い活動が出来るようになり、本当にありがたいと感謝の気持ちでいっぱいでした。

コロナウイルスが発生し 3 年が経過しその間何度も例会が中止になりクラブ運営にも大きな後遺症が表れているような気がしてなりません。

常時マスク着用・大声の会話の禁止・グループ会合の自縮等が続き、例会も何か活気が薄れていく感じがして危機感を持っているのは私だけでしょうか。正常な例会の実施はクラブを維持し持続的発展をする為には必須と思います。

先月「さわやかコンサート」を畠山事業委員長をはじめ会員の皆様のご協力により開催することができましたことは大きな喜びでありました。

それに伴い 4 名の方が入会されましたことは会の発展にとって大きな力になりました。それでも不安もあります。会員の高齢化でありそれに伴い退会を考えている方が増えるのではないかと心配です。これからは会を退会せず仲間として会を見守って行く制度も必要があると考えます。皆様でより良い方法を考えていただきたいと思います。

国際社会では、ロシアによるウクライナへの侵攻、北朝鮮による日本海に向けたミサイル発射等予断を許さない状況で、日本経済の悪化も懸念され日常生活への影響が心配ですが、日本人の栄智で乗り切る事でしょう。

最後に皆様にはこの一年間ご指導ご鞭撻をいただき感謝しております。大変お世話になりました。ご健勝をお祈り申し上げます。



(2) 埼玉浮き城プロバスクラブ会報

ハッピーボックス発表

◎本日の卓話山下様本日お忙しいところお越しいただきありがとうございます。お話したのしみにしております。(根岸)◎新緑が美しい季節になりました。(石塚)◎すごいしやすい良い季節となりました。さわやかコンサートが楽しみです。(大澤)◎東京高円寺に残置したままの家具を30年振りに行田に運びました。断捨離奮戦中です。(木村)◎いつの日か山下氏の講演をと願っていましたが、やっと実現しました。有難うございました。(小島・椎橋)◎4名の皆様の入会を歓迎いたします。一句「新人の入会歓迎夏に入る」(清水)◎小林様、牧野様、若生様、鈴木様入会おめでとうございます。心より歓迎いたします。山下様の卓話、大変楽しみにしています。(須郷・畠山)◎社会情勢混沌の中、コロナ感染に注意し自身を守りましょう(保泉)◎新緑一年で一番爽やかな季節です。コロナ、ウクライナの終息を祈ります。(武笠)◎テレビのニュースの番組が、恐ろしさと憤りを感じ、辛くて見られませんが、お陰様で我が国では、平和で皆様とも楽しくお会いできることに感謝しています。(渡邊)◎さわやかな季節、心もさわやか、さわやかコンサートも10周年記念にふさわしいコンサートになる様頑張ります。

しょう。(高橋・山田)◎山下先生の講話たのしみにしております。第4回のさわやかコンサートの成功を祈ります。(鈴木)◎小山会員から足腰が弱くなりしばらくの間出席できませんので、皆様によりよく伝えてほしいと伝言がありましたのでお知らせいたします。(鴨田)◎幾つもの病院通いと、まだまだいくつかの仕事の現役でもあり、暇な筈なのに忙しないです。(宮根)◎新入会員3名方の入会おめでとうございます。是非新風を吹きこんで下さい。29日のさわやかコンサート楽しみにしております。これを機会にプロバスの益々の発展を期待しております。(加藤・田口・藤倉)◎春の訪れとともに我が家に3年ぶりにツバメが戻り古巣をリサイクルしながら産卵準備に入っております。人間と同じでツバメも「SDGs」ですね。笑!(岩崎)◎ピアノコンサートは始りましたが、合唱コンサートは未だ出来ないようです。早くコロナが治まりますように!(森田)◎畠山様にお話を頂き何もわからないまま本日を迎えました、とにかく会員の皆様とごやかに過ごすことから徐々に慣れてゆきたいと思えます。お世話になります。(若生)◎新入会員です。見るもの、聞くもの、触るものすべて分かりませんので宜しくお願ひ申し上げます。(小林)◎新入りです。宜しく御願ひ致します。(牧野) 文責 森田義弘



第132回 例会卓話 埼玉・県北地域の歴史を築いた 根岸友山・武香の人物交流

熊谷市立江南文化財センター
山下 祐 樹

根岸友山 (1809 - 1890)

根岸家は江戸時代の豪農として栄え、幕末期の友山は、16歳にして家督を相続し、名主となって村政を担った。そして自邸内に「振武所」という剣術道場と「三餘堂」という私塾を開設し、子弟の教育を進めた。荒川の堤防普請で、役人の不正を正すためにいわゆる「蓑負騒動」に加担し、厳罰を受けたものの、村人の信頼厚く、安政6年(1859)には赦免され、子弟教育を再開した。また友山は長州藩と親交があり江戸藩邸に招かれることもあった。幕末には、尊王攘夷論者であった友山は、浪士組(後の新撰組)に一時参加したが、隊の中の意見や主張の相違から途中で分かれ帰郷し、その後は村政に尽力した。



根岸武香 (1839 - 1902)

根岸武香は天保10年(1839)5月15日、大里郡吉見村冑山の地に、根岸友山の二男に生まれた。父と同じく文武両道に秀で、少年の頃より勉学を志して江戸に出向した。武術を千葉周作の道場に習い、また国学を平田鉄胤や横山由清に学び、和歌は小林歌城や安藤野雁に



師事した。

儒学を三餘堂に逗留した寺門静軒に教えを求めた。特に和漢の学の特筆すべき能力を発揮し、その関心は考古学や史学への研究に繋がった。大森貝塚を発掘したE・S・モースが根岸家に来訪するなど、外国人との学術的交流でも知られる。

根岸家長屋門

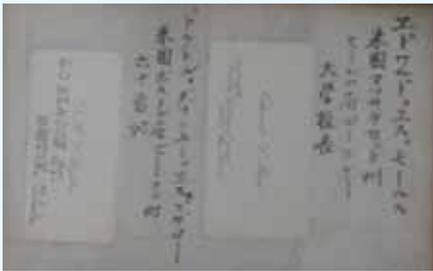
江戸時代後期の寛政年間頃(1789~)に建てられた根岸家長屋門は、幕末に活躍した「根岸友山」と、維新後の政治に深くかかわり考古学者として活躍した息子「武香」の生家。現在もその風格は残され、熊谷市の有形文化財(建造物)に指定されている。根岸家長屋門は、その偉容や建築美から郷土の顔として多くの人々に愛されてきた。平成22年に保存修理工事が行われ、建物全体の補修と共に外壁が原初の色と同じ鼠色に復元された。



根岸家の歴史的資料



根岸家に残るE・S・モースのスケッチ



名刺 (1882)



感謝状 (1883)



武香が記した土器・石棒・石剣

寺門静軒 (1796 - 1868)

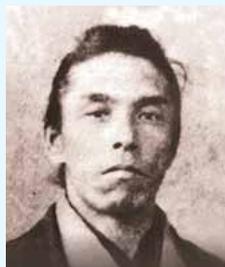
幕末の儒学者。諱は良。字は子温。通称は弥五左衛門。克己・蓮湖という号もある。



寺門静軒『江戸繁昌記』：江戸後期の漢文戯作。5編5冊。天保3～7年(1832～36)刊。さらに第6編は『江戸繁昌後記青楼之巻(せいろうのみき)』として41年刊。また第5編を書き継いだ『江戸繁昌後記』は初編・2編が明治11年(1878)に刊行。当時発禁処分となり、静軒は江戸を離れることになる。妻沼、熊谷宿を経由し最晩年を根岸家で過ごし、門弟の教育などを行った。根岸家で没し、根岸家墓所に隣接して静軒の墓として円筒型の墓石が置かれている。県の旧跡に指定されている。

清水卯三郎 (1829 - 1910)

1829年(文政12)3月4日生まれ。母方の伯父根岸友山、箕作阮甫(みつくりげんぼ)などに学んだ。生母の没後、根岸家に身を寄せる。慶応3年(1867)パリ万国博に日本の美術品を紹介、陶器絵の具、石版印刷器械などの美術商品とともに帰国。渋沢栄一、尾高惇忠との交流を起点に経済、社会事業分野に傾注。東京に瑞穂屋を開店し、洋書や歯科医療器具などを輸入販売。明六社に参加し、仮名文字普及を提唱した。明治43年(1910)1月20日死去。名は直。字は子礼。号は蕪軒。



竹井澹如 (1839 - 1912)

天保10年(1839)、群馬県甘楽郡南牧村羽沢の豪族市川家に生まれた。幼名を萬平といい、幽谷と号した。慶応元年(1865)、熊谷宿の本陣を務めた竹井家の当主となり、明治12年(1879)、初代の県会議長に就任。その後、政府の要職などをすすめられるものの、終始一貫熊谷地方のために貢献した。



次代の県会議長の根岸武香との協力関係は長く続いた。その他、熊谷県庁の誘致、旧熊谷堤の修築と桜の植樹、養蚕業の振興、私立中学校の創設など多岐に渡って偉業を残し、大正元年(1912)8月に死去。竹井家別邸の星溪園は、現在も熊谷市名勝として多くの市民から親しまれている。

渋沢栄一 (1840 - 1931)

近代日本経済の父といわれる渋沢栄一は天保11年(1840)深谷市の血洗島の農家の家に生まれた。幼い頃から家業である藍玉の製造・販売・養蚕を手伝い、父市郎右衛門から学問の手ほどきを受けた。7歳になると下手計のいとこの尾高惇忠のもとへ論語をはじめとする学問を習いに通った。



20代で倒幕思想を抱き、惇忠や惇忠の弟の長七郎、いとこの渋沢喜作らとともに、高崎城乗っ取りを計画したが、長七郎は京都での見聞からこれに反対し計画は中止された。その後、喜作とともに京都へ向かい、一橋(徳川)慶喜に仕官することになった。一橋家で実力を発揮した栄一は27歳の時、慶喜の弟徳川昭武に随行し、パリ万国博覧会を見学し、欧州諸国の実情に触れた。

帰国後、日本で最初の合本(株式)組織「商法会所」を設立し、明治政府の大蔵省に仕官した。栄一は富岡製糸場設置主任として製糸場設立にも関わり、義兄の惇忠が初代場長に就任。大蔵省を退職後、一民間経済人として株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れるとともに「道德経済合一説」を唱え、約500もの企業の設立に関わった。また約700もの社会公共事業、福祉・教育機関の支援と民間外交にも熱心に取り組み、数々の功績を残した。

資料：『渋沢栄一伝記資料』

株式会社熊谷銀行創業総会決議報告(第5巻 p.339-340)

一明治廿七年五月六日埼玉県大里郡熊谷町創立事務所(小松屋新三郎方)ニ於テ開ク

一本日出席ノ株主ハ三拾八人ニシテ(代理権ヲ委任セシモノ拾九人権利数貳百個ヲ併算)此権利数ハ六百拾三個ナリ

第一 創業ノ承認

一金七拾貳円七拾八銭四厘 但創業総会迄ニ支払フベキ分

一金三拾五円五拾銭 但創業総会ヨリ設立免許迄

(4) 埼玉浮き城プロバスクラブ会報

二要スル予算

(略) 第五 役員選挙 (匿名投票)

取締役

五百六拾点 稲村貫一郎 五百三拾点 根岸武香
四百三拾点 斎藤周一郎
四百三拾点 長谷川敬助 三百四拾点 松本平蔵 右当選ス

監査役 (同前)

五百拾点 根岸常次郎 三百九拾点 笠間靖
三百拾点 竹井懿貞 二百六拾点 斎藤蔵之助
二百三拾点 中村房五郎 右当選ス

○五月七日取締役互撰ノ結果ハ左ノ如シ

頭取 稲村貫一郎 副頭取 斎藤周一郎 右決定
相成候間及御報告候也

明治廿七年五月七日 株式会社熊谷銀行創立事務所

第六課文書類 農商・鉄道二関スル書類二 明治30年第1種 第9巻 p.78-87

磐城鉄道株式会社創立発起認可願

私共儀、今般福島県安積郡々山町ヲ起点トシ、三春・小野新町ヲ経、同県磐前郡平町ニ達スル延長大約四拾四哩ノ間、別紙図面朱線ノ場所ニ鉄道ヲ敷設シ、旅客貨物運輸ノ営業ヲ為スノ目的ヲ以テ、磐城鉄道株式会社ヲ創立仕候間、何卒右会社発起ノ儀、御認可被成下度、依テ商法及ヒ私設鉄道条例ノ規定ニ依リ、別紙書類相添へ、発起人一同連署ヲ以テ此段奉願候也

明治廿八年十月四日

発起人

東京市浅草区橋場町三十七番地 真中忠直 (印)
同市日本橋区兜町二番地 洪沢栄一印
同市同区本材木町一丁目七番地 渡辺治右衛門 (印)
同市本所区千歳町四十六番地 川崎八右衛門 (印)
同市深川区清住町一番地 浅野総一郎印
同市麴町区中六番町五番地 唐崎恭三 (印)
同市本所区緑町一丁目九番地 天野仙輔印
同市京橋区霊岸嶋塩町九番地 宮古啓三郎 (印)
福島県磐城国磐前郡平町字紺屋町三十五番地 白井遠平 (印)
東京市本郷区真砂町拾五番地 小山田信蔵 (印)
埼玉県武蔵国大里郡吉見村青山一番地 根岸武香 (印)
東京市小石川区諏訪町廿六番地 石川弥 (印)

『洪沢栄一日記』 明治34年(洪沢栄一述)第27巻 p.108

洪沢栄一 日記 明治三四年 (洪沢子爵家所蔵)

三月二日 晴

○上略 埼玉学友会長島隆二・吉田市十郎・本多静六ノ三氏来ル ○下略

○中略。

三月七日 雨

○上略 午後八時埼玉県人竹井澹如・吉田市十郎・本多静六・長島隆二諸氏来ル、学校生徒監督ノ事ヲ談ス

○中略。

三月十九日 晴

○上略 午後六時兜町ニ帰宅ス。此日埼玉県出身ノ書生修学ヲ奨励監督スヘキ会ヲ設クル為メ、佐野少将・竹井澹如・長谷川敬介・吉田市十郎・福田又市・諸井恒平・根岸武香・長島隆二ノ諸氏来会シ、其方法ヲ審議ス、衆議其設置ノ大体ヲ可決シ、方案起稿ノ為メ佐野男爵・吉田市十郎・諸井恒平・長島隆二ノ諸氏ニ主査ヲ托ス、夜十時散会ス (以下略)

結びに

根岸友山・武香の存在は、近現代熊谷の揺籃期を形成した役割が大きく、このような近代史における根岸家研究の可能性は大きいと考えられる。よって、根岸家の歴史の更なる啓発と情報発信が熊谷の歴史の再認識に繋がると期される。

そして、今後の研究課題である根岸家が有する多くの歴史資料及び美術品を含む文化遺産をいかに保護活用するかという点について検討を進めていく所存である。

主要参考文献・資料

- 『根岸友山・武香の軌跡：幕末維新から明治へ』根岸友憲 監修 根岸友山・武香顕彰会／編さきたま出版会 2006年5月
- 資料「根岸家と洪沢栄一の周辺」山下祐樹 2021年5月
- 公益財団法人洪沢栄一記念財団情報資源センター 資料アーカイブズ

浮き城俳句会 6月句会 (第110回)

兼題 - 夏めく、当季雑詠

人生は紫陽花のごと多種多様	小島ぼん太	里の子の賑わい運ぶ若葉風	安部節子
万葉の歌碑立つ道や夏めきて	須郷岐川	新緑の木下の歌碑に思い馳せ	鈴木理翠
上着にも風の匂える立夏の日	清水 周	麦秋の武蔵野走る利根水路	渡邊 雅
緑道や万葉仮名に青嵐	木島 泉	夏めくやいにしえ人の想い詠む	大澤扇由女
夏めくやはにわは何を夢見しか	田口半茶	生きてこそ老いの苦しみ青嵐	高橋菁村

次回例会案内 7月15日(金)第135回通常例会 卓話「会長に就任して」 木島隆夫会長

埼玉浮き城プロバスクラブ ブログ 第132回通常例会 さわやかコンサート 会報No.131 更新しました。